

Event information on a library 図書館イベント情報

\*子ども向けのイベントは P18にも掲載しています

2/12 (日)

絵本まつりin 中央図書館 『お楽しみ会』申込み受付中!

2月12日(日)10:00~11:30

①「お楽しみ会」一申込制 (会場/視聴覚室)

内容/絵本、語り、紙芝居、手遊びなど。

■10:20~10:40 (受付10:00~) ...0~2歳中心。定員50人。

■11:00~11:30 (受付10:50~) ...3~5歳中心。定員50人。

②「読み聞かせなんでも相談&司書のミニミニ講座」

一当日参加 (会場/会議室)

■10:20~11:30 対象/家庭・幼稚園・

学校などで読み聞かせをしている方、始めたい方。子連れ可。

内容/受け付け順に相談。希望者には読み方の指導も。数人集まったら「読み聞かせミニミニ講座」を開催

アドバイザー/町立図書館司書、町内読書ボランティア

《主催》三芳町子ども読書環境サポート隊「ほんのむし」

《申込み・問い合わせ》「ほんのむし」事務局

メール: 9kcs21@yahoo.co.jp FAX259-9974 (水野)



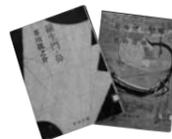
3/3 (土)

大人のための朗読会 ~名作に親しむ~

3月3日(土)14:00~15:00 中央図書館視聴覚室

朗読/寺田道雄(アナウンサー、「七月の朗読会」講師) 作品/「羅生門」「ビルマの竖琴」他 対象・定員/大人(中学生以上)60人

申込み/中央図書館で受付中。電話可 電話258-6464



図書館だより

http://www.lib.miyoshi.saitama.jp

中央図書館 ☎258-6464

開館時間/10:00~19:00(土・日は18:00まで)

休館日/毎週月曜日、月末日、土・日除く祝日

■かにかにこそこそ(昔話などを覚えて語る練習会)を第3水曜日10:00~正午に行っています。※大人対象

竹間沢分館 ☎274-1722

開館時間 11:00~18:00

休館日/毎週月曜日、月末日、土・日除く祝日

地域文庫

児童書の貸出、お話をなどを行います

つくし文庫...2月18日(土) 10:00~12:00

場所/上富第1区集会所

あらた文庫...開庫・火曜日、15:30~18:00

場所/荒田自宅

(藤久保536-4 三芳東中学校近く)

上富小学校では、12月26日から27日にかけて長野県の菅平高原で5年生がスキー教室を実施しました。町内の他の小学校では、夏に林間学校を実施していましたが、上富小学校ではこのスキー教室を25年以上も前から行い、今や伝統的な学校行事となっています。当日のスキー場は、まさに雪国らしく気温は低く雪も少し降っていました。雪質はよく、スキーを体験するにはとてもよいコンディションでした。ほとんどの子どもにとって、スキーは初めての体験で、道具を身につけるのも一苦労です。靴に足がなかなか入らなかったり、スキー靴が板になかなかはまらなかったりで、ゲレンデに出るまでもに時間がかかります。初めてスキーを滑った子どもたちは、自分の背丈よりも長いスキー板を操るのに四苦八苦していましたが、さすがは小学生。飲み込みも早く、あつという間にこつをつかみ、歩けるようになりました。

かしてスキーを十分に楽しめるまでになりました。子どもたちは自分でリフトに乗り、自力で斜面を下ってきます。引率の先生はコース上のいくつかのポイントで安全確認をすればよいほどに上達していました。1時間足らずの自由滑走の時間でしたが、子どもたちは時間を十分に使い、何度も何度もスキーの滑りを楽しんでいました。一泊二日の短いスキー教室でしたが、雪国の様子を見たり、スキーの楽しさを体験したりすることは、小学校生活の思い出として子どもたちの心の中にいつまでも残ることでしょう。



さあ、レッスンは始めるぞ!

教育トピックス 冬の伝統行事「スキー教室」

BOOK SELECTION

【図書館の本棚】雪に関連した名作、昔話を紹介します ~別置紹介中~

児童書

『ゆきおんな』

まつたにみよこ/文 あさくらせつ/絵 ポプラ社 1977年初版発行 請求記号 Eゆ



これは長野地方に伝わる民話を美しい語り口で再話した絵本。語り口とよくなじんだ温かみのある絵が、読み手を民話の中へと引き込みます。読み聞かせにも最適です。

児童書

『雪女』

小泉八雲/作 平井呈一/訳 伊勢英子/絵 偕成社 2000年2月初版発行 請求記号 Eゆ



雪女の心情や吹雪の様を幻想的に描いた絵が、日本の伝説・奇談に魅せられた小泉八雲の傑作を一層際立たせます。前述の1冊と比較した読み方も味わいが深まります。

一般書

『雪国 改版(新潮文庫)』

川端康成/著 新潮社 2006年5月初版発行 請求記号 B913カワ



「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。」という冒頭が有名な小説。主人公や作中女性の揺れ動く心を描写した美しい文章表現をじっくり味わいたい作品です。

一般書

『武蔵野(デカ文字文庫)』

国木田独歩/著 舵社 2006年1月初版発行 請求記号 D913クニ



「武蔵野の佛(おもかげ)は今纔(わずか)に入間郡に残(のこ)れり。」から始まる傑作と名高い本編、雪夜の繊細な情景描写をお愉しみください。大文字で読み易い仕上がりの一冊です。

みよし歴史探訪 文化財を訪ねて 第十一回 竹間沢の稲荷社

日本で一番数が多い神社は、「お稲荷さん」として親しまれる稲荷神社であるといわれ、赤い鳥居と狐で知られる稲荷社の総本社は、京都市伏見区にある伏見稲荷大社とされています。稲荷神は、作神(農業の神様)として祀られることが多く、かつて純農村地帯であった三芳においては、旧村の鎮守や屋敷神として稲荷神が祀られています。稲荷神の祭日は、初午と呼ばれる、旧暦で二月最初の午の日に行われていました。正月を月遅れで迎えていた頃は、三月になって初めての午の日を祭日としていましたが、現在では、各地区ごとに初午祭の日取りが決まられ、藤久保では二月初めの午の日、竹間沢では二月十一日、北永井と上富では三月一日、北永井と上富では三月一日となっています。

竹間沢には、主稲荷、藤森稲荷、北側稲荷、本村稲荷、木下稲荷、二社稲荷という六つの稲荷社があります。それぞれ一〇軒から二〇軒ほどの氏子により講が組織され、祠を管理しています。

これらの稲荷社の初午として、二月十一日に稲荷講が行われています。かつては三月の初午の前日に「オ



▲主稲荷の幟旗

ビシヤ」と呼ばれる稲荷講が行われていました。当日は、それぞれの稲荷社の前に氏子が集まり、大きな幟旗を立てて供物を供えます。午後になると、「宿」と呼ばれるその年の当番の家に集まって飲食を行います。現在では、仕出し料理をとってすませますが、かつては宿とその年の勝手当番が協力して料理を作り、うどんを打ってなりました。また、子供たちが、境内に丸太とムシロで小屋掛けをし、かがり火をたいて一夜を明かす「お籠もり」も昭和三五年頃まで行われていました。初午には、大きな幟を目印に、お稲荷さんを巡ってみてはいかがでしょう。

◎社会教育課 (内)517